

「微量 PCB 混入廃重電機器処理専門委員会」第 3 回会合



環境省は「微量 PCB 混入廃重電機器の処理に関する専門委員会」の第 3 回目の会合を持ち、処理スキームの基本的考え方に沿って、具体的な焼却処理や洗浄処理、測定方法についての検討を行いました。

焼却処理についてはすでに民間や財団の産業廃棄物処理施設で実証試験が進行しており、今年 2 月に行われた第 2 回目の試験の結果によると、どの施設でも大気や排ガス、排水中の PCB 濃度、ダイオキシン濃度すべてにおいて基準値を下回っており、問題は見られなかったと報告されています。次回の焼却処理実証試験では温度条件、技術基準についてさらに検討が進められる予定になっています。

洗浄処理に関しては、電気事業連合会が電力中央研究所に依頼し、変圧器を部材別に解体しないで、形状を有したまま簡易に洗浄する方法の実証試験を推進しています。

PCB 廃棄物か否かの判定に必要な簡易測定方法について、低濃度 PCB 汚染物対策検討委員会の測定法ワーキンググループで測定技術を検証しています。今回、電力会社の子会社など 20 機関が試験に参加し、正確かつ低価格で測定可能な技術手法の特定を目指しています。

専門委員会では当面、秋に向けてこれらの実証・検証を重ね、安全かつ適正な処理の方法や施設の技術基準・要件等の考え方を整理し、第 4 回の会合を 9 月以降に開催する予定としています。

当社ではトランス・コンデンサ、土壌、環境水中の PCB の分析を多検体短納期で行っております。お気軽にお問い合わせください。

資料 2007 年 7 月 12 日付 週間エネルギーと環境 No.1948

微量 PCB 混入廃重電機器の処理に関する専門委員会公聴より

機器分析箇所 向江菜生